

令和四年度 一般入学試験問題「国語」

【試験上の注意答えはすべて解答用紙に記入すること】

一 次の文章を読んであとの問いに答えよ。

トラウマを扱うとき、なぜ文化を考える必要があるのか。その理由としては、A、グローバル化に伴い、トラウマを抱えた人たちに、異なる文化的背景をもつ治療者や支援者たちが、さまざまな形で接する機会が増えているということがある。

スマトラ沖地震や四川大地震、そして東日本大震災などでも明らかのように、世界レベルで相互に被災地に支援者を派遣し合うことが、近年、常識になりつつある。災害救援にあたって被災者へのI配慮が求められるのは当然であり、トラウマ反応の文化的相違に関心がもたれている。トラウマケアに焦点を絞った、より長期的な支援活動も、国際的に行われるようになってきている。

もともと多民族国家である米国などでは、一九七〇～八〇年代から、精神症状の解釈や、病氣行動や家族の関わり方などにおいて、文化的背景の違いにIIことの必要性が指摘されてきた。言語や宗教の違いをどう乗り越えるのか、どのような言葉で苦悩が語られるのか（苦悩の慣用表現 (Idioms of distress)）、その文化における正常／異常、健康／病氣、病氣／逸脱（犯罪）などの（a）境目はどこに置かれるのか、病者とされた人にはどのような行動が期待されるのか、病氣へのステイグマ（注1）はどうか、どのような癒しの技法があるのか、などが問われ、医療人類学が発達してきた（クラインマン二〇一二）。民族誌的（エスノグラフィック）な研究のほか、フォーカスグループ・インタビューなどの具体的な方法論も開発されてきた（Osterman and de Jong 2007）。

（1）トラウマと文化の問題は、八〇年代頃から、移民、とくに難民を多く受け入れる先進国の精神保健専門家たちのなかで焦点化されるようになった（Mollica 2008）。難民は紛争を経験したり拷問被害などを受けていることが多く、かつ精神状態が難民認定と複雑に絡み合っていたからである（Bousseau and Measham 2007／Kirmayer 2007）。日本は国として難民をほとんど受け入れていないために、これらの流れを共有していない。このことが、トラウマやPTSDの概念の日本へのIIIが遅れたことの一因といえるかもしれない（宮地二〇〇五／ブグラ+グプタ二〇一七）。

これら移民や難民の受け入れと並行して、カンボジアや、旧ユーゴスラビア、ルワンダ、東ティモール、南アフリカ、スリランカなど、紛争や戦争がおきた地域への国際的な（b）介入や人道的支援のなかでも、aの問題が注目されるようになった。

B、世界保健機関などを中心に、精神疾患の国際的疫学調査がなされたり、疾病がもたらす日常生活の質への負荷が推計されたり、国際保健のなかで精神保健の重要性が指摘されるようになった

令和四年度 一般入学試験問題「国語」

【試験上の注意答えはすべて解答用紙に記入すること】

(Desjarlais et al. 1995)。これは、死亡率に直接関わらないとして軽視されてきた精神疾患や暴力、アディクション(注2)などの問題が世界的な健康の課題とされるようになったのである。グローバル・メンタルヘルスの取り組みが広がるにつれて、米国の『精神疾患の分類と診断の手引き(DSM)』(c)「一辺倒ではなく、通文化的な診断基準へのニーズは高まるだろう。ちなみに、『国際疾病分類(ICD)』は改訂が行われたばかりで(二〇一九年世界保健総会で承認、二〇二二年発効予定)、今後その有用性が試されるだろう。DSMも第五版では、患者の文化的多様性に配慮できるよう、文化的定式化面接の章が設けられている(Lewis-Fernández et al. 2015)

PTSDに関しては、先進国における難民の受診者や、少数民族コミュニティなどで疫学的調査が行われているほか、世界の紛争地域における比較調査なども行われるようになっていく。有名なものとしては、デヨングラの調査がある。これは、カンボジア、アルジェリア、エチオピア、ガザ(パレスチナ)という四つの紛争後コミュニティにおける疫学調査で、それぞれ二八・四％、三七・四％、一五・八％、一七・八％というPTSDの(d)罹患率の数値が出ている(de Jong et al. 2001)。この調査は、調査対象者も合計三〇四八人というIVもので、文化比較の厳密な方法論にのっとり、調査票の翻訳なども丁寧に行われている。このほかネパールのブータン難民や、タイ国境のカンボジア難民、ボスニア女性、ガンビアのセネガル難民、スリランカの一般市民などでも紛争後、PTSDの調査が行われている。

PTSDについては、その疾患概念の(2)「通文化的な有効性を認めつつ」、(3)「医療化」の道具として使われることに(e)「危惧を示す論者も少なくない。とくに紛争や戦争、政府による弾圧などの政治的暴力がもたらす苦悩が「精神疾患」とされ、「医療化」されてしまうこと、それによって、社会的な異議申し立てが無効にされたり、排除されたりしてしまうことに、クラインマンらは倫理的な疑念を強く示している」(Kleinman 1995)。

「医療化」については、別の意味でのVも表明されている。それは、トラウマへの対処を医療の領域に限定してしまうことによって、人々が日々の生活のなかで培ってきた対処法や伝統儀式、暗黙知といったものが壊されてしまう危険性である(Zarowsky 2000)。

どの文化においても、たとえ欧米であっても、トラウマをめぐる現象のほとんどは生活文化のなかでおこる。そして、精神保健の専門家によって対応されることも、PTSDなどの疾患としてみなされることもなく、ほとんどが処理されている(Somasundaram 2007)。周知の通り、大きな自然災害などでも、一年後のPTSD罹患率は一〇二割程度にすぎず、それ以外の人たちは、初期にはさまざまなトラウマ反応をもたらしながらも、「自然」に癒されていき、事例化することはない。

令和四年度 一般入学試験問題「国語」

【試験上の注意答えはすべて解答用紙に記入すること】

C

(4)「自然」というのは、何もないということではない。安全で安定した生活環境を少しず

つ取り戻していけたり、周囲の人間とつながっていける状態があるということである。ほつとできる公園や、喫茶店や本屋や、川縁のベンチ、音楽や美術や演劇や踊りやスポーツ、そういったものがどれほど大切なかは、非常時にしか気づかないかもしれないが、

 β

な回復には欠かせない。葬儀や祭り、

記念碑や記念日の儀式、シャーマニズムや宗教、地域によつては魔術や呪術など、民俗的な装置も重要である。大変な目にあった後には社会機能の低下をおこしても当然だ、と受けとめられ、服喪や追悼、役割猶予の機会や期間が与えられたり、社会的な区切りが与えられることは重要である（性暴力被害の後のPTSD罹患率が高い理由のひとつは、こういった環境が与えられず、

 β

な回復が促進されな

いからであろう）。死んだはずの大切な人の姿が鮮やかに見えたり、声が聞こえたりすることが必ずしも不思議ではないと認識されることも、喪失をゆつくり受け入れていく過程で重要である。

「こころのケア」の場合（通常の精神医療や心理臨床でも実はそうなのだが）、そういった生活文化のなかに潜在する治療的要素をいっしょに見つけ出したり、作り出したりして活用すること（これらの効果は目に見えず、多因子的かつ長期的なので、(5)エビデンスにはのってこないことが多いが）、当事者やその所属するコミュニティの回復能力を信頼することが、

VI

の大前提になるだろう。

D

悪循環がおこらないような啓発活動や限定的な介入を、あくまでも控えめに行うことが、当事者の生活文化の回復そのものにつながるといえる（アメリカ国立子どもトラウマティックストレス・ネットワーク二〇二一／中井二〇二一／宮地二〇二一）。

注1 差別・偏見

注2 嗜癖・依存症

(出典：宮地尚子『トラウマにふれる 心的外傷の身体論的転回』金剛出版・二〇二〇、出題の都合上削除した文章がある)

令和四年度 一般入学試験問題「国語」

【試験上の注意答えはすべて解答用紙に記入すること】

問一 空欄 A D を補うのに最も適当な語を、次の (ア) ～ (オ) の中からそれぞれ一つ選んで符号で書け。

(ア) 一方 (イ) だから (ウ) まず (エ) そして (オ) ただ

問二 空欄 I VI に入れるのに最も適当な語を、次の (ア) ～ (エ) の中からそれぞれ一つ選んで符号で書け。

空欄 I (ア) 先進的な (イ) 精神的な (ウ) 根源的な (エ) 理念的な

空欄 II (ア) 用心する (イ) 手助けする (ウ) 考慮する (エ) 配慮する

空欄 III (ア) 輸入 (イ) 翻訳 (ウ) 採用 (エ) 選定

空欄 IV (ア) 大規模な (イ) 規格外な (ウ) 野心的な (エ) 遠大な

空欄 V (ア) 後悔 (イ) 疑問 (ウ) 懸念 (エ) 暴力

空欄 VI (ア) ホスピス (イ) チャレンジ (ウ) サービス (エ) サポート

問三 波線部 (a) ～ (e) の語の読みを記せ。

問四 傍線部 (1) 「トラウマと文化の問題は、八〇年代頃から、移民、とくに難民を多く受け入れる先進国の精神保健専門家たちのなかで焦点化されるようになった」とあるが、それはなぜか。簡潔に説明せよ。

問五 空欄 α β に入る言葉を、それぞれ本文中から抜き出せ。

問六 傍線部 (2) 「通文化」、(5) 「エビデンス」の意味として適当なものを、次の (ア) ～ (エ) の中からそれぞれ一つ選んで符号で書け。

傍線部 (2) (ア) 文化を融合する (イ) 文化に特化する (ウ) 文化を比較する

(エ) 文化を文章化する

傍線部 (5) (ア) 理由 (イ) 証拠 (ウ) 保証 (エ) 追認

問七 傍線部 (3) 「医療化」の道具として使われる」とあるが、このことにはどのような問題があるか。簡潔に説明せよ。

問八 傍線部 (4) 「自然」というのは、何もないということではない」とあるが、それはどういうことか。簡潔に説明せよ。

受験番号

広島市立看護専門学校 第一看護学科

5—5

令和四年度 一般入学試験問題 「国語」

【試験上の注意答えはすべて解答用紙に記入すること】

二 次の文章にある傍線部のカタカナ表記を、漢字に改めよ。

(前略) わたしたちは、いろいろな問題について話をしている。プロ野球の日本シリーズの結果について、ソ連のペレストロイカについて、アボカドの調理法について。あるいは、哀れみについて、苦しみについて。弟の声が、薄いベールになってわたしを包んでいる。しゃべり疲れると、二人は好きなだけに①チンモクを抱えてそれを温めている。弟の横顔の輪郭は、軟体動物の②タイヒョウ面のように神秘的に透き通っている。わたしの心を乱すものは何もない。完璧な土曜日だ。

弟はいつでも、この完璧な土曜日の記憶の中にいる。ガラス細工のように精巧な弟の輪郭を今でもはつきりと思い出すことができる。

わたしはまだ、こんなふうに記憶の中だけで弟に会うことに、慣れていない。その時にこみあげてくるいとおしさの塊をどう扱ったらいいのか、よくわからない。③ヨドんだ血液が絡み合い固まってしまうように、肋骨の裏あたりでいとおしさの塊がどんどん大きくなってゆく。するとわたしは、それがボンと④ハレツしてしまわないように、じっと息を静める。そしてただ泣いている。もっとじょうずに弟を忘れることができたらいいのに、と願いながら、安らかな病室の記憶に⑤ヒタっている。

(出典…小川洋子『完璧な病室』中公文庫 二〇〇四)